

寄稿

地域と市民を育てる行政へ

「おだわらを拓く力」 加藤憲一

小田原が持つ豊かな可能性を活かした地域づくりの主役は市民です。市民が情報を持ち、市民が考え、市民が声を上げ、市民が実行する方向へ、行政の在り方を大胆に見直すべき時が来ている。幾つかのポイントがあります。

①透明・公開
小田原駅舎やスパウザ、あるいは2学期制など、行

政の様々な取り組みにおいて、結論が用意されていないから、形式的に市民に意見を求めるケースが多く見られます。主体は市民なので、何をするかを決める段階からの情報開示と市民主導が原則です。いずれは、予算も市民が作る時代になります。

②市民自治へ
市政の大きな目標の一つ

は、市民の自治能力（問題解決能力）を培うことです。公園の補修、地域の緑化、児童館づくり、介護サークルづくりなど身近な問題から、市民自身が知恵を出し、行動し、カタチや仕組みを造る方向へ育てるべきです。必要な権限と機能を市民に徐々に移管し、重要なことを最終的に市民が決定する住民投票制も必要です。

③専門家育成

市職員が3年ほどの周期で異動になってしまうので、専門家が育たず、市民との関係も途切れがちなため、様々な取り組みや関係性がなかなか深まりません。全般的にローテーション期間を長期化し、情報と経験の

蓄積を計るべきです。
④地域対応強化
行政機構の効率化とスリム化が目指され、小田原でも広域連携や支所の統廃合が進められています。しかし、地域と市民の力を育てるべき時代だからこそ、例えば小学校区単位で地域担当職員を配置するなど、むしろ地域に手厚く対応できる布陣を考えるべきです。



かとうけんいち：1964年小田原生まれ、39歳。小田原高校、京都大学法学部卒。経営戦略コンサルティング会社、民間教育団体事務局長、農・林・漁業、あしがら農の会、ほっとピアイブタウン理事、小田原市政総研市民研究員などを経て、現在オービックビル事務局長。妻と子ども二人の4人家族。趣味は山登り。

おだわらを拓く力

(加藤けんいち後援会)
代表／飯田 和
小田原市栄町2-9-46
オービックビル2F
TEL&FAX 0465-22-6695
http://www.katoken.info
power@katoken.info
HPに日記掲載中
スタッフ募集中!